Ⅲ期（一般・社会人）

受験番号		氏名	

令和 2 年度

武蔵野大学大学院　看護学研究科看護学専攻　　入学試験問題･解答　（3月8日）

評　点

[　母子看護学　]

問題　1　流産･死産をした母親および家族へのあなたの看護実践を記述し、評価しなさい。(40 点)

問題 2 以下の事例を読み、下記の問1～2に答えなさい。

Ａ子さんは 35 歳の初産婦である。職業は会社員（事務職）で、32 歳で夫と結婚し、二人暮らし、既往歴はない。職場まではバスで 15 分程度。結婚後、半年しても妊娠しなかったため、不妊外来を受診した。排卵障害及び卵管通過障害が認められ、体外受精-胚移植を行った。4 回目の体外受精-胚移植で初めて妊娠し、本日、妊婦健康診査に訪れた。妊娠 12 週である。胎児心拍は 140bpm で、性器出血、下腹部痛はなく、超音波検査では異常は認められなかった。「つわりがないので、本当に妊娠しているのかなといつも不安です。」「流産しないか心配で、仕事に行く以外はとにかく動かないようにしています。家事はすべて夫がしてくれています。」と述べた。

問 1 Aさんの状態をアセスメントし、A さんの発言に対して、必要な看護について述べなさい。(30 点)

問 2 Aさんは妊娠経過に問題なく、妊娠 39 週で自然分娩をし、3,250g の女児を出産した。分娩所要時間は 11 時間、アプガースコアは 1 分後 9 点、5 分後 9 点だった。翌朝、助産師は母子同室と母乳育児をすすめたが、A さんは、数分間、直接授乳を試したあと、「思った以上に出産の疲れが残っているし、おしもの傷が痛いので、今日は赤ちゃんを新生児室で預かってくれませんか」と述べた。「赤ちゃん、かわいい」という発言はあったが、児に積極的に話しかける様子はない。A さんの状態をアセスメントし、優先度の高い看護をふたつ述べなさい。(30 点)